

バンバ通り (昭和36年)

「バンバ通り」の今昔。

昭和36年の写真は、バンバ通りにあった仲見世が撤去されたときのもの。通りの中央に露店や飲食店が南北に軒を連ねていた仲見世は、両側にあった花屋敷や電気館などの映画館と併せ、市民の娯楽と憩いの場所でした。特に大正から昭和初期にかけては全盛期で、「宇都宮の浅草」として北関東一のにぎわいをみせました。

道路が石畳みになり、ケヤキなども植えられている現在の景観とは大きく違っていました。



はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

自分らしく粘り強いラリーを

夢は2020年東京五輪

作新学院高等学校 海老原 詩織さん

昨年9月に、埼玉県で開催されたバドミントンのJOCジュニアオリンピックカップ全日本ジュニア選手権大会、ジュニア部女子シングルスで初優勝を果たした海老原さん。「ちょうど1年前の同じ大会で、初戦で、しかも年下の選手に負けてしまい、悔しい思いをしました。1年後に優勝できて、とてもうれしかったです」と振り返ります。

「小学1年生の時にバドミントンを始めた時から現在まで、栃木のたくさんの方々に支えられてここまで来ることができました。今年は高校生活最後の1年、インターハイで優勝して感謝の気持ちを示したいです」と話します。

その先に見据えるのは2020年東京オリンピック。その時に22歳になる海老原さんは、「高く厳しい目標だけど、出場してメダルを目指したい」と夢を語りまへ向かっています。